

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

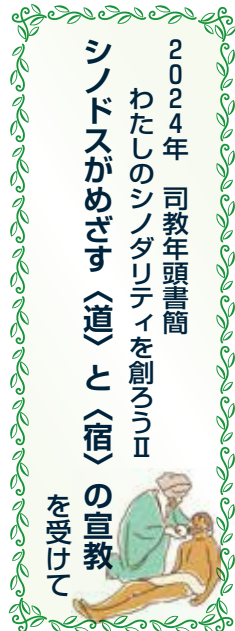
ふるさとメキシコでグアダルーベ宣教会に入会してからの宣教体験の中で、私は他の人々の証しを通して、そして次に私自身の証しを通して、私が人生における神の呼びかけを真に理解することができました。証しがなければ使命はなく、使命がなければ教会は存在しません。

キリストを信じる私たち一人ひとりは、他の人々の証しを通してキリストに召され、その人々のおかげでキリストに出会うことができました。同様に、私たち一人ひとりが、教義や概念ではなく、復活したキリストとの経験を他の人と分かち合っていく限り、他の人々は私たちを通して神に出会うことができるでしょう。

大塚司教は年頭書簡で、「わたしたちは、どのような教会になりたいでしょうか」という根本的な問いを投げかけます。この質問に答えるのは難しいですが、まずは、私たち一人ひとりがどのようにしてキリストに初めて出会ったかを思い出し、意識してみることから始めるのが良い方法だと思います。間違いなく神との最初の出会いには、もう一人の人物が関わっていて、その信仰の証しのおかげで、私たちが神と出会うのを少し助けてくれました。同様に、私たちが自分の信仰を他の人と分かち合わなければ、他の人が神と復活し

第10回 証しとしての宣教

2024年 司教年頭書簡
わたしのシノダリティを創ろうII
シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教
を受けて



たキリストに出会う機会を奪うことになりません。結局のところ、宣教するということは、日常生活を通して他の人たちと信仰を分かち合うことです。

司祭としての私の場合は、特別なことをするのではなく、日常生活や当たり前のことを通して、周りの人たちに信仰を伝えていきます。食べ物を食べたり、



ワールドユースデーリスボン大会
若者とともに

分かち合ったり、人々の話を注意深く聞くといった単純なものから。重要なのは、私たちがすでに毎日行っていることを通して、私たちの信仰を分かち合い、証しすることです。

日本において、この一歩を踏み出すことは間違いなく大きな挑戦ですが、キリスト教徒であることは、歴史を通じて、あらゆる文化において挑戦であり続けてきました。日曜日にミサのために集まるだけでなく、どこにいても、誰に出会っても、自分がキリストの弟子であることを恥じることはない、生きた教会になろうではありませんか。

このシノドスの歩みの道を通して、私たちはより良い方法で信仰を生き、日々変化するこの世界で、毎日キリストに会い続けることができますように。

京丹ブロック担当司祭
グアダルーベ宣教会 ホルヘ・モンテロ



5年ぶり開催
京都教区中学生
広島平和巡礼「紡ぐ」



8月5日から7日にかけて、第37回中学生広島平和巡礼が行われました。

京都教区から10名の中学生が参加しました。今回のテーマ「紡ぐ」には、戦争を実際に体験した世代がさらに少なくなくなり、戦争の卑劣さ、残虐さ、悲しさが次世代に引き継がれず、忘れ去られないようにという思いが込められています。以下、参加した中学生の感想です。

「原爆ドーム」

僕がこの合宿を通して、一番印象に残ったことは、原爆ドームを見たことだ。実際ドームを見ると、極めて大きく、だがレンガの壁はボロボロになっていて、悲しさを覚えた。

僕の経験はそれだけじゃない。原爆資料館の訪問である。館の中は薄暗く、生々としていた。展示物には、亡くなった方の衣類や、錆びた弁当箱、陶器などがあり、当時の状況をイメージすることができるような、そんな気がした。

改めて、核爆弾（原子爆弾）の恐ろしさを知り、爆発した時に起こる放射性物質についても理解した。また、核爆弾の威力はすさまじく、被爆地から何キロも



宿泊させていただいたカトリック祇園教会
最終日にミサを行いました

離れていても被害は大きかった。これらの経験から、戦争は絶対に起こしてはいけない、何かの言い争いで戦争に発展するのではなく、戦争以外の解決方法を、世界で考え直す必要があるのではないかと考えた。

「自分が実感したことを紡ぐ」

私は広島平和巡礼に初めて来ました。一日目は、平和祈願ミサに参加し、皆と一緒に祈りをしました。その中でとくに印象に残ったことは、各教区からたくさんの方々が来ていたり、広島県以外からもたくさんの方々が来ていたりして、皆と一つになって平和のために祈

りできたことです。

二日目は、平和記念資料館に行きました。資料館に行く途中に原爆ドームの横を通り、相生橋で黙祷をしました。他にも戦争について意見をのべている人や、戦争についての思いを発表している人がいました。そして資料館につき、中を見学しました。そこで印象に残ったことは、原爆で火傷をおった人の写真や、ボロボロになった服が展示されていて、原爆や戦争の恐ろしさを実感しました。

この二日間で色々な出来事を体験して、改めて戦争が二度と起きないように、今、自分ができていることを考えて行動しようと思いました。

「広島平和巡礼の感想」

初めて広島原爆ドームや平和記念資料館をおとすれ、想像以上に衝撃を受けました。

原爆ドームは、テレビや写真で見たりも大きく、これが原爆の恐ろしさだと思いました。そして平和記念資料館では、元々、本やYouTubeなどで、どのような物があり、どのような事が書かれているかは知っていましたが、実際に見た物は自分の考えていた物よりも、悲しい物でした。

この事を通して、平和について考えた分ち合いでは、みんなの平和とはどのような事をいうのかを考え、色々な意見が出て、自分は人に優しくする事が平和

につながる第一歩だと考えました。その他にも、今、平和や戦争の事を意識する事が、平和につながるっているという意見もありました。

その他には、レクリエーションでは十人十色や自己紹介などでみんなと仲を深める事ができうれしかったです。



「未来へ紡ぐ」

僕はこの広島平和巡礼に行き、戦争のおそろしさを今まで以上に深く知ることができた。

特に広島記念資料館で見た数々の、その当時の状況を思わせる表現や、写真や絵などで見た原子爆弾の被害などによって、今ある平和は、たった一個の戦争によって壊されるんだと知ることができた。

戦争については、小さいときにおじいちゃんに教えてもらった話だけしか知らなくて、初めて見た「ほたるの墓」でも衝撃をうけて夜もねむれなかった。しかしこれからの人は戦争について知っている人がほとんどなくなっていて、戦争について知らずに生きていき、またこのような悲惨な戦争を起こしてしまうかもしれないので、未来に生きていく人たちが少しでも戦争のおそろしさを知り、戦争を起ささないようにしてほしい。

そのために自分たちが戦争のおそろしさを伝えたり、子どもたちが比較的ふれやすい、テレビやYouTubeなどで戦争のおそろしさを伝えていきたい。またこれからの社会をになっていく私たちが戦争をおこさないように、自分たちの意思をしっかり持ちこれからの社会を生きていきたい。

「平和記念資料館を振り返って」

今日、一年振りに資料館へ行って、最初とはまた違うことに目線をおけたと思いました。例えば、服の燃え方や人の火傷の範囲などに、目線をおきました。スクリーンに映っていた原爆が落ちた瞬間の映像がすぐリアルでびっくりしました。スクリーンの場所が暗く、横からは音がでていたので、少しは昔に近づけられたのかと思いました。遺体の写真や亡くなった原因を見て、自分より年下の子が亡くなっていることを知って、悲しくなりました。出口に近づいていると人の模型とそのうしろに原爆を縮小したものがありました。人の大きさより少し大きくて、あれだけ威力があった事にとってもびっくりしました。だから、原爆はあってはいけないものだと思います。

これから少しでも平和にするために私は、相手を思い尊敬し、少しでも理解できるように努力したいです。



広島平和記念資料館を見学し、当時の様子を学びました
広島平和記念資料館前にて

「世界代表司教会議 第16回通常総会
第2会期のための討議要綱の要約」
の抜粋



2021年10月から行われてきたシノドスですが、今年の第1会期に引き続き、今回第2会期が行われました。その議論のガイドのために、討議要綱が教皇庁シノドス事務局より発表されています。その長い討議要綱を要約したものがカトリック中央協議会より出されましたが、教区時報に掲載するために、その中より皆さまにお読みいただきたい部分を抜粋して掲載いたします。

しかし、ぜひ全文を、カトリック中央協議会サイト、または下記のQRコードよりお読みいただけましたら幸いです。
広報委員会担当司祭 瀧野正三郎

「宣教的でシノドス的な教会になるにはどうすればよいか？」これが、2024年10月2日から27日まで「ともに歩む教会のために・交わり、参加、宣教」というテーマで予定されている、2023年に続くシノドス世界代表司教会議 第16回通常総会の第2会期で取り扱われる『討議要綱』の出発点となる基本的な問いかけです。

『討議要綱』は、2024年7月9日(火)に発表され、教皇庁広報局で紹介されたのですが、「あらかじめ用意さ

れた答え」を提供するものではなく、教会全体が「宣教におけるシノダリティ(ともに歩む宣教)となることの必要性」にどのように応えるかについての「指示と提案」を述べています。すなわち、人々にさらに近い教会、少なくとも官僚的ではない教会、そして神の家であり家族である教会、洗礼を受けたすべての人々が共同責任を負い、それぞれのミニストリー(任務)と役割に応じた教会、信仰の共同体にあるのちに参加できるような教会、そのような点についての記述があります。

第1部 神との関係、兄弟相互の関係、教会間の関係

関係(関わり)は宣教にあって教会が「シノドス的」なものであることを可能にしてくれるからです。その関係とは、すなわち、父なる神との関係(関わり)、キリストにおける兄弟姉妹の関係、各教会間の関係です。多くの矛盾を抱えながらも世界は正義、平和、希望を探し求めています。地方教会からは、他でもない若者たちの声が聞こえてきます。彼らは組織でも、官僚主義でもない唯一の教会を求めています。それどころか、互いに支え合う関係に基づくひとつの教会を求めているのです。そして、大胆なダイナミズムと歩みのなかで生きている若者たちの声も聞こえてきます。

第2部 養成のプロセスと 共同体による識別

「共同体による識別」は、すべての人の責任と参加を明確にしながら、教会が適切な決定をくだすことを可能にしてくれます。そして、「いのち(生活)と愛

の共同体としての家庭は、信仰とキリスト教実践のための教育の特に開かれていない場となります」とはっきりと主張しながら、家庭を「さまざまな世代が織りなすシノダリティの学校である」と言い切っています。「家庭は弱い人と強い人、子ども、若者、高齢者の誰もが多くのものを受け取り、多くのものを与えることができるからです」。

第3部 エキュメニカルならびに 諸宗教対話の場

エキュメニカルな対話、諸宗教との対話、さらには諸文化との対話という大きなテーマは、まさに、いま描いた「場において、場から」という地平の中に組み入れなければならぬのです。以上のような枠組み(コンテキスト)にあって、キリスト者の目に見える一致へと向かうエキュメニカルな旅路の「新しい状況」への使徒的ミニストリー(任務)の実施のための形態を捜し求めなければなりません。

希望の巡礼者

最後に、この文書に示されているどの質問も、教会への奉仕を生きるためであり、今の時代に深く傷ついていた傷を癒してくれる可能性を秘めている点が指摘されています。そして、『討議要綱』は2025年の聖年のために示されている「希望の巡礼者」の観点から、旅を続けましょうという招きで締めくくられています。

表題の全文はこちらから



こんにちは シスター 共同宣教司牧担当者のシスターの紹介シリーズ

三重北部フィリピン人司牧担当

シスター ヘンリエット・アントニオ・サンビレ (無原罪の聖母フランシスコ姉妹会)

私はフィリピンのヌエバエシハ州ギンバ出身で、コンピューターサイエンスの学士とホテル・レストラン経営の準学士を取得しました。幼い頃からいつも小教区の活動に参加していたので、その頃から修道生活への呼びかけを強く感じていました。

2006年5月に無原罪の聖母フランシスコ姉妹会に入会しました。2011年5月に初誓願を宣立した後、神学校の厨房で、また黙想の家や他の修道院でも厨房で奉仕しました。

そして2017年、ここ日本での宣教に派遣されました。最初は日本語や文化の違いにとまどいましたが、神様は不思議な方法で導いてくださいました。また修道共同体、司祭団と信徒の皆様の支えによって歩んできました。異国で奉仕することは多くの困難や課題がありますが、私はこの7年間、神の愛は永遠であると自信をもって言えるようになりました。

これからも神の愛のために歩んでいきたいと思います。



中学生会リーダー募集！

京都教区の中学生とともに過ごす数日間の合宿を、一緒に企画・運営してみませんか？

私たちは年に2回、春と冬の長期休暇に合わせた京都教区中学生会の合宿をおこなっています。レクリエーション、祈り、分かち合い、ミニイベントなど、それぞれの係にリーダーが分かれ、合宿中、参加した中学生に有意義な時間を過ごしてもらえるよう、月に数回、Zoom や青年センターでミーティングをしています。常に笑いの絶えない賑やかで充実した時間を私たちと一緒に作りましょう！

少しでも興味のある18歳から35歳の方（高校生不可）は、京都カトリック青年センター、もしくは京都教区中学生会インスタグラムからお問い合わせください。お待ちしております！

京都教区中学生会
インスタグラム →



丹後教会 池本 光

京都カトリック青年センター
E-mail: seinen@kyoto.catholic.jp

つながりネットワーク 深めようコミュニケーション
京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも
見てね！

青年センターあんでな

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

いのち・平和・環境委員会

映画上映『放射線を浴びたX年後IIIサイレント・フォールアウト～乳歯が語る大陸汚染～』

上映後 伊東英朗監督のトーク

日 時：11月16日④ 14:00～16:30

場 所：河原町カトリック会館地下2階大ホール
会場にて支援金のご寄付をお願いします

問合せ：正義と平和協議会

☎075-223-3340④⑤⑥ 10:00～16:00

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日 時：11月16日④ 17:00～17日⑥ 16:00

場 所：望洋庵（西陣教会内）

講 師：奥村 豊（京都教区司祭）

テーマ：「終末論」

対 象：青年男女（18～35歳 高校生参加不可）

問合せ：メールまたはFAX

メール/shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

FAX/075-223-3371

教会学校研修会

日 時：11月30日④ 10:30～15:30

場 所：河原町カトリック会館大ホール

講 師：大塚 喜直（京都教区司教）

テーマ：「今、教会学校に望むこと
～司教と現場司祭の対話～」

対 象：教会学校リーダー、および18歳以上で
教会学校の活動に関心のある方

問合せ：メールまたはFAX

メール/shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

FAX/075-223-3371

広報委員会

教区時報1月号の原稿締切日は11月18日⑥です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp



京都教区 物故者祈念ミサ

日 時：11月3日⑥ 14:00

場 所：河原町教会

司 式：大塚 喜直司教

京都教区内のすべての帰天者のために
祈るミサ

大阪高松教会管区

望洋庵（西陣教会内）

講座のお知らせ

大学生と青年のためのキリスト教講座

青年のための聖書入門講座

詳細はQRコードより望洋庵の
HPをご覧ください



部落差別人権活動センター

学習会「すべてのいのちを守る教会をめざして
－ハンセン病問題 過ちを繰り返さないために－」

日 時：11月23日④⑤ 14:00

場 所：サクラファミリア（大阪梅田教会）

講 師：松本公子（幼きイエス会会員）

奥村 豊（京都教区司祭）

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

11月10日⑥ 14:00 聖歌練習

11月23日④ 17:30 練習後、ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂

団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェルステ（女声コーラス）

練 習：11月14日④ 10:00 28日④ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日 時：11月19日④ 13:00～15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：Tel・Fax 075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

11月のテーマ「大きな壁」

KBS京都 ④～⑤ 朝5:55

④ 朝5:15

ラジオ関西 ④～⑤ 朝5:00

④ 朝6:05

毎日放送 ④～⑤ 朝5:45

④ 朝4:55



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」
が必要な方がおられないでしょうか。点訳
版「京都教区時報」をご希望の方がおられ
ましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・
笠松幸彦さんまでお申込みください。
無料でお送りします。
Tel・Fax/072-722-0271